

第32回韓日中産業安全保健学術会議へ参加して

山田 麻莉¹ 阿部 唯¹

Yamada Mari, Abe Yui

はじめに

2025年5月29日から31日にかけて、韓国・ソウル市のHotel Koreanaにて、第32回韓日中産業安全保健学術会議(The 32nd Korea-Japan-China Conference on Occupational Health and Safety)が開催された。本会議は、韓国・中国・日本の産業保健分野における専門家が一堂に会し、産業保健・安全に関する最新の研究や実践を共有することを目的として、毎年持ち回りで開催されているものである。

今回のテーマは「新たなリスクと課題に直面する産業保健 (Occupational Health in the Face of New Risks and Challenges)」であった。議長を務めたのはKorean Industrial Health Association (KIHA) 会長のHong Choi氏であり、3日間にわたるプログラムでは、ワークショップ、キーノートスピーチ、シンポジウム、ポスター・口頭発表、そして交流を目的としたバンケットが行われた。例年と同様に多様な国・地域から多くの研究者・実務者が参加し、活発な議論が交わされた。日本からも多数の参加者が現地に赴いた。

1. Workshop

ワークショップでは、3カ国からそれぞれの産業保健に関する取り組みが紹介された。

日本からは、鹿児島県の運送業界を対象に行われたアウトリーチ型産業保健サービスの構築事例が報告された。これは、産業保健資源の乏しい中小企業に対し、外部の保健専門職が事業

所を訪問してリスク評価や健康指導を行うものであり、運転手に特化したセルフチェックシートの開発や、健康診断、ヒアリングの実施などが特徴である。

韓国からは、有機溶剤による中毒性肝炎が疑われた印刷業の小規模事業場での対応が紹介された。劣悪な作業環境や個人保護具の未使用が報告され、小規模事業場の産業保健管理の脆弱性が指摘された。今後は行政機関と連携した支援体制の強化が必要であるとされた。

中国からは、産業保健技術機関の現状と今後の発展について報告があった。民間・公的・企業内機関など多様な組織形態が存在する中、今後はスマート検査技術やビッグデータの導入を進め、「順守重視」から「パフォーマンス重視」への転換が提言された。

2. Poster Session

ポスター発表は2回に分けて行われ、Session I (18演題) が5月29日午後、Session II (19演題) が翌30日午前に実施された。

各ポスターは会場内のデジタルサイネージを操作することで参加者が自由に閲覧できる形式であった。発表テーマは、緑地曝露とメンタルヘルスの関連、学校給食従事者のCT評価、地下作業におけるラドン曝露、スマート安全機器の認証制度に関する検討など多岐にわたり、現場に即した実践的な研究が多く見られた。日本からも複数の研究が出展され、年齢調整罹患率を用いた転倒災害の分析など、今後の産業保健

¹ 産業医科大学 産業生態科学研究所 健康開発科学研究室 修練医
産業医学ジャーナル 48(6): 621-624, 2025. doi: 10.34354/ohpfjrnl.48.6_621

分野への応用が期待される内容が報告された。

3. Oral Session

口頭発表は2回にわたり実施された。Session I (5月29日)は「産業保健とリスク評価」、Session II (5月30日)は「産業保健マネジメント」をテーマに、合計9題の発表があった。

Session Iでは、粉じんや化学物質曝露に関する報告が多く、建設業・鉱業におけるじん肺リスクや、化学物質リスク管理の3要素(作業環境・作業・健康管理)の重要性が示された。

Session IIでは、熱中症リスク評価やAI時代の雇用不安に対する社会意識分析、特別健康診断のデジタル化など、産業保健マネジメントの改善に関するテーマが多くみられた。日本からはヘルメット型発汗量測定システムの実証研究が紹介された。

4. Opening Ceremony

開会式では、開催国の韓国をはじめ、中国、日本の各国代表者によるスピーチが行われた。日本からは、我々が学生時代に産業医科大学の学長を務めておられた東敏昭氏(一般財団法人西日本産業衛生会)が登壇され、日本代表として会議の開会を祝われた。

5. Keynote

今回の会議では2つのセッションが行われ、各国の注目トピックが紹介された。

Keynotes Iでは、産業医科大学の財津將嘉氏が「Working Longer, Staying 'Balanced'」と題し、高齢労働者の転倒リスクに対する疫学的分析を紹介した。喫煙、睡眠、運動習慣といったライフスタイル要因が転倒に与える影響を多角的に検討し、行動要因への介入の重要性が示された。なかでも印象的だったのは、「転倒を完全に防ごうとすれば甲冑を着せるしかない」とユーモアを交えて語られた場面であった。職場におけるリスクゼロの実現がいかに現実離れしているかを軽妙に示し、会場からは笑いが起こった。さらに、映画『バック・トゥ・ザ・フュー

チャー』に登場するような浮遊型の移動手段に例えて、過剰な安全対策の限界と現実的な予防策の必要性が伝えられた。

Keynotes IIでは、韓国の Park Soyoung 氏が、加湿器に添加する殺菌剤による健康被害について講演した。かつて韓国では、家庭用加湿器に使用された殺菌剤により多数の呼吸器疾患が発生し社会問題となった。講演では、健康被害の背景や因果関係の解明に至るまでの経緯、対応の遅れを招いた制度上の課題が紹介された。身近な家庭用品による健康リスクの大きさに改めて気づかされ、公衆衛生と産業保健の両面からの対応の重要性が強調された。

6. Banquet

2日目の夜には、本会議のメインである全体懇親会が開催され、まず各国の代表者による挨拶が行われた。続いて、韓国の Seong-Kyu Kang 氏による「Palaces of Korea: The Allure of Seoul」と題したプレゼンテーションが行われた。スライドを用いて、韓国の王宮や歴史的建造物、伝統文化について解説があり、荘厳な建築や色彩豊かな装飾を通じて韓国の歴史的背景に触れる時間となった。その後は、韓国の楽曲を中心としたジャズ演奏が披露された。ソロながらも情感豊かな音色が会場を包み、参加者は思い思いに歓談を楽しみながら、穏やかで温かい雰囲気の中で懇親のひとつきを過ごしていた。

1年ぶりに各国の先生方が一堂に会する場となった会場は、再会を喜ぶ笑顔とにぎやかな会話に満ちていた。研究の話題はもちろん、互いの近況を語り合う姿も見られ、言葉や文化を超えたつながりの尊さを改めて感じさせる機会となった。

7. Symposium

シンポジウムは3部構成で開催され、多様な産業保健の課題が取り上げられた。

Symposium Iでは、学校給食従事者における肺がんリスクや調理油煙への曝露が中心テーマとなった。韓国の Jungwon Jang 氏の発表では、全国規模の後ろ向きコホート研究により、学校調理員が肺がんを発症するリスクが有意に高い

ことが示され、厨房の換気改善が急務であることが指摘された。中国の Iu-Jin Lee 氏からは、調理油煙の発がん性と曝露評価の困難さについての課題が提起され、現行の測定手法の限界と政策的対応の必要性が述べられた。

Symposium II では、メンタルヘルスと職場ストレスが焦点となった。韓国の Hyeonju Jeong 氏によるバーンアウト予測モデルの報告では、「雇用の不安定さ」や「報酬の不十分さ」などが主なリスク因子として挙げられ、機械学習を活用した職場ストレスの可視化が予防的介入や職場改善の有効な手段となり得ることが示された。日本からは産業医科大学の河村洋子氏が、若年労働者におけるストレスとメタ認知スキルの関連について報告し、早期離職防止に向けた心理的支援の重要性を指摘した。

Symposium III では、感染症対策と室内空気環境の管理について議論された。産業医科大学の大和浩氏は、模擬咳によって発生するエアロゾルの拡散を可視化し、あわせて飛沫の濃度を定量的に測定した実験結果を紹介した。前方や左右の測定地点すべてでエアロゾルの曝露が確認され、咳による飛沫が想定以上に広範囲へ到達することが示された。この結果から、感染症リスクの低減には局所および全体換気の併用と、個人保護具の適切な使用が不可欠であることが実証的に示された。また、韓国の Myong Jun-Pyo 氏からは、屋外の大気汚染や喫煙が屋内の空気環境および体内代謝物に与える影響についての分析結果が紹介され、屋内外を統合した環境管理の必要性が提起された。

8. 決定事項

本会議の閉会にあたり、次回「第33回日中韓産業安全保健学術会議」は、2026年6月24日から26日までの3日間、高知県（日本）にて開催されることが正式に決定された。日本での開催は3年ぶりとなる。豊かな自然と歴史に恵まれた高知の地で、再び各国の専門家が顔を合わせ、より実りある議論と交流が行われることが期待される。

おわりに

本会議では、日中韓それぞれの現場に根ざした取り組みや研究成果が多数発表され、産業保健の今後を展望するうえで非常に有意義な時間となった。ワークショップやシンポジウムを通じて、制度・文化の異なる3カ国が共通の課題に向き合いながら、協働の可能性を広げていく姿勢が随所に感じられた。ポスター・口頭発表の場では、若手研究者や実務家の積極的な参加が見られ、次世代を担う人材の成長とネットワーク構築の場としても意義深いものであった。懇親会では、国や立場を越えた対話が生まれ、今後の実務や共同研究につながる新たなつながりも育まれたように思う。

今後も本会議が、産業保健・安全に関わる多様な知見の共有と、国際的な連携強化の場として発展していくことを願うとともに、開催にご尽力いただいた関係者の皆様に深く感謝申し上げたい。



写真1 The 32nd Korea-Japan-China Conference on Occupational Health and Safety (2025.5.29-31, Hotel Koreana, Seoul)



写真2 韓国式の祝花で彩られた開催会場



写真3 東敏昭氏（西日本産業衛生会）



写真4 財津将嘉氏（産業医科大学）



写真5 大神明氏（産業医科大学）



写真6 Committee meeting の風景



写真7 大和浩氏（産業医科大学）



写真8 次回開催地の紹介
(2026.6.24-26、高知県高知市)



写真9 辻真弓氏（産業医科大学）、
Zhou Zhijun氏（復旦大学／中国）



写真10 左から、森下次郎氏（京都工場保健会）、森本泰夫氏（産業医科大学）、東敏昭氏（西日本産業衛生会）、Se-Hoon Lee氏（カトリック大学／韓国）

The 32nd Korea-Japan-China Conference on Occupational Health and Safety

*“Occupational Health in the Face of
New Risks and Challenges”*

Date

May 29 (Thu) ~ May 31 (Sat)

Venue

Hotel President, Seoul, Republic of Korea



Date	Time	Session	
29 th (Thu)	14:00-15:00 (60)	Registration	
	15:00-16:30 (90)	Workshop	
	16:30-18:00 (90)	Poster session (Presentation)	
30 th (Fri)	08:30-09:00 (30)	Opening ceremony	
	09:20-11:00 (100)	Keynotes	
	11:00-12:20 (80)	Poster session (Tour)	
	12:20-14:00 (100)	Lunch	Committee meeting
	14:00-15:40 (100)	Symposium 1	Oral session 1
	15:40-16:00 (20)	Tea & Networking time	
	16:00-17:40 (100)	Symposium 2	Oral session 2
	18:00-20:00 (120)	Banquet	
31 st (Sat)	08:30-10:10 (100)	Symposium 3	
	10:10-10:30 (20)	Tea & Networking time	
	10:30-12:10 (100)	Keynotes	
	12:10-12:30 (20)	Closing ceremony	

Guidelines for Participation



Please scan the QR code and download the application for participation.

* Notice

Only those who have submitted their application form can pay the fee on-site. (On-site registration is not available.)

Application deadline: **March 21 (Fri), 2025**

Registration fee: **USD 200 or KRW 280,000**

Abstract Submission Guidelines



Please scan the QR code and download the guideline for abstract submission.

* Important Dates

Submission deadline: **March 21 (Fri), 2025**

Abstract acceptance: **Mid-April**

Submission to: **Country Representatives**

Venue & Hotel Accommodation



Please scan the QR code and download the application for hotel information & application.

* Notice

The secretariat will assist you with booking at the designated conference hotel.

- Approximately KRW 210,000 per night.
- One breakfast included per one room.

Application deadline: **March 21 (Fri), 2025**



<Hotel President, Seoul, Republic of Korea>

Application for Participation (참가신청서)

The 32nd Korea-Japan-China Conference on Occupational Health and Safety
May 29(Thur) ~ 31(Sat), 2025, Hotel President, Seoul, Republic of Korea

Name (이름)	Kor (한글)	<i>Koreans: Both Korean and English names</i>	
	Eng (영문)	<i>Foreigners: English only</i>	
Affiliation(소속)			
Contact(연락처)		Phone:	E-mail:
Category(구분)		General Participant ()	Workshop ()
		Keynotes ()	Symposium ()
		Oral Presentation ()	Poster Presentation ()
		Abstract Title:	
Registration Fee (참가비)		() USD 200	
		() KRW 280,000	

* Please complete the application form and submit it to the designated contact for your country.

** Korean nationals are kindly requested to send an email to youngsw94@kiha21.or.kr.

The 32nd Korea-Japan-China Conference on Occupational Health and Safety

May 29(Thur) ~ 31(Sat), 2025, Hotel President, Seoul, Republic of Korea

Instruction for Abstracts

Please write the abstract only in English.

There are no translation facilities provided.

1. Use Microsoft WORD program.
2. Paper size should be A4 (210 mm x 297 mm) and margins should be 35 mm (top, bottom) and 30 mm (right, left).
3. The text should be single spaced in Times New Roman in 12-point.
4. Type the title in 14-point Times New Roman with initial letters in capitals.
5. The presenting author should be listed first and underlined.
6. Please submit it to the designated contact for your country by **March 21 (Fri)**, 2025 via email.

Korean nationals are kindly requested to send an email to youngsw94@kiha21.or.kr.

초록 작성 방법

초록은 영어로 작성해주시기를 부탁드립니다.

번역 서비스는 제공되지 않습니다.

1. Microsoft WORD 프로그램을 사용하십시오.
2. 용지는 A4 크기(210 mm x 297 mm)로 하고 여백은 위/아래 35 mm, 좌/우 30 mm로 설정하십시오.
3. 본문은 Times New Roman 글꼴, 12포인트 크기로 한 줄 간격으로 작성하십시오.
4. 제목은 Times New Roman 글꼴, 14포인트 크기로 각 단어의 첫 글자를 대문자로 작성하십시오.
5. 발표자는 첫번째로 표기하고, 밑줄을 그어 표시하십시오.
6. 초록은 2025년 3월 21일(금)까지 각국 담당자에게 메일로 보내주십시오.
한국 참가자들께서는 youngsw94@kiha21.or.kr으로 제출하십시오.

The 32nd Korea-Japan-China Conference on Occupational Health and Safety

May 29(Thur) ~ 31(Sat), 2025, Hotel President, Seoul, Republic of Korea

TITLE (초록 주제)

Author1(저자명1), Author2(저자명2)

Affiliation(소속기관)

*Email :

Purpose(목적) :

Method(방법) :

Result(결과) :

Conclusion(결론) :

The 32nd Korea-Japan-China Conference on Occupational Health and Safety

May 29(Thur) ~ 31(Sat), 2025, Hotel President, Seoul, Republic of Korea

Keywords(주요어) (Write 3 keywords)

The 32nd Korea-Japan-China Conference on Occupational Health and Safety

May 29(Thur) ~ 31(Sat), 2025, Hotel Koreana, Seoul, Republic of Korea

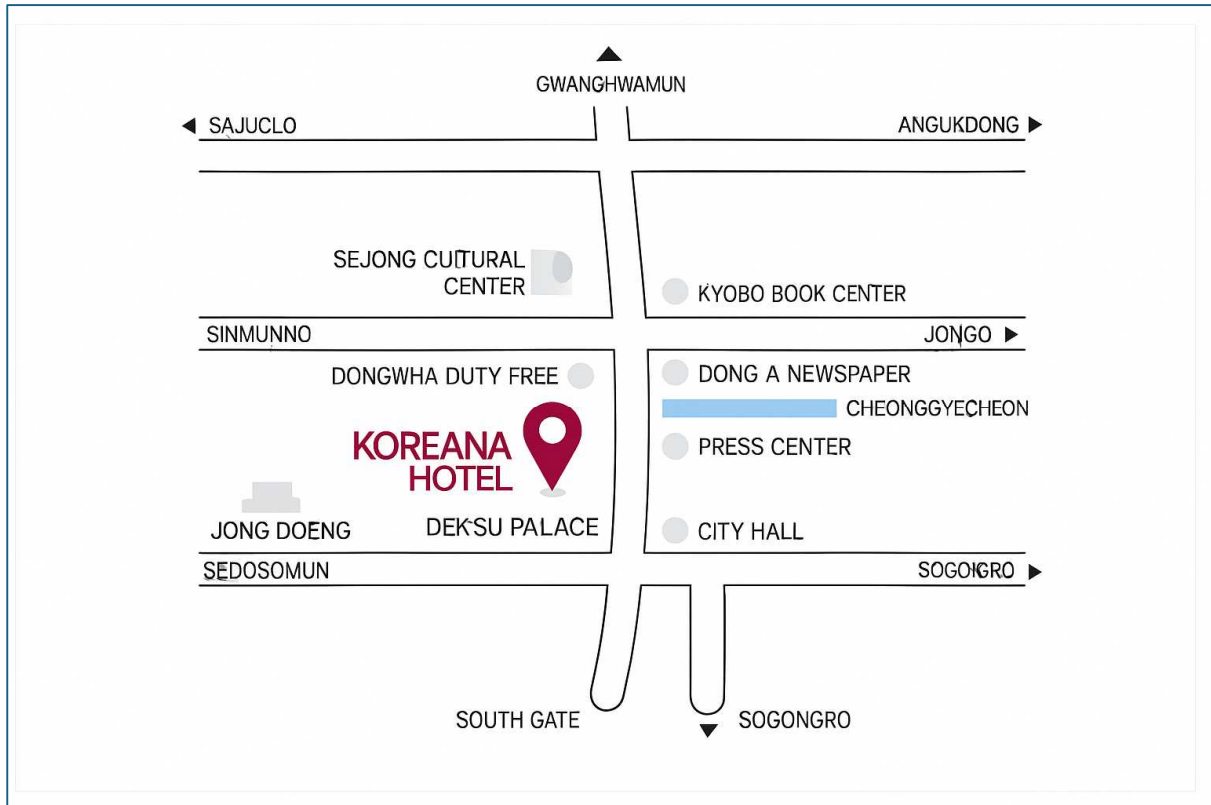
Hotel Information (호텔 정보)

Place: Hotel Koreana, Seoul, Republic of Korea (코리아나 호텔)

Website: <https://koreanahotel.com/>

Address: 135, Sejong-daero, Jung-gu, Seoul, 04519, Republic of Korea.

Phone: +82-2-2171-7000



- Include one complimentary breakfast per room.
방당 1명의 무료 조식비용이 포함됩니다.
- We apologize, but KIHA is unable to facilitate reservations for other hotels. We kindly request that you make your reservation directly.
다른 호텔에 대한 예약은 진행해 드리지 않으며, 다른 호텔 이용을 희망하신다면 직접 예약이 필요합니다.

The 32nd Korea-Japan-China Conference on Occupational Health and Safety

May 29(Thur) ~ 31(Sat), 2025, Hotel Koreana, Seoul, Republic of Korea

Other Hotels Nearby (5-10 minutes walking distance)

근처의 다른 호텔 (5-10분 도보 거리)

1. The Westin Josun Seoul(웨스틴 조선 서울)

Address: 106 Sogong-ro, Jung-gu, Seoul, South Korea

2. Lotte Hotel Seoul(롯데호텔 서울)

Address: 30 Eulji-ro, Jung-gu, Seoul, South Korea

3. Courtyard by Marriott Seoul Namdaemun(메리어트 코트야드 남대문)

Address: 9 Namdaemun-ro, Jung-gu, Seoul, South Korea

4. New Kukje Hotel(뉴 국제 호텔)

Address: 12 Sejong-daero 22-gil, Jung-gu, Seoul, South Korea

5. Hotel 8 Hours(호텔 8 아워즈)

Address: 26-10, Namdaemun-ro 1-gil, Jung-gu, Seoul, Republic of Korea

6. Hotel Gracery Seoul(호텔 그레이스리 서울)

Address: 12, Sejong-daero 12-gil, Jung-gu, Seoul, South Korea

The 32nd Korea-Japan-China Conference on Occupational Health and Safety

May 29(Thur) ~ 31(Sat), 2025, Hotel Koreana, Seoul, Republic of Korea

Application for Accommodation

- **호텔명(Hotel Name):** Hotel Koreana, Seoul, Republic of Korea (코리아나 호텔)
- **주소(Address):** 135, Sejong-daero, Jung-gu, Seoul, 04519, Republic of Korea.
- **전화(Phone):** +82-2-2171-7000
- **호텔비용(Hotel Rate):** Deluxe Queen(1 bed) KRW 219,000 per night (fixed rate)
Deluxe Family Twin(2 bed) KRW 348,000 per night (fixed rate)
- **호텔 신청서 제출 기간(Submission Deadline):** April 3 (Thu), 2025

The hotel rate is only guaranteed for those who have submitted a completed KIHA accommodation request by the deadline. No cancellations will be accepted after confirmation, and payment is due upon check-in.

Please fill out the accommodation application form and submit it to the contact person in your country.

The contacts in each country are kindly asked to gather the completed applications and forward them to the email below.

(Korean nationals are kindly requested to send an email to youngsw94@kiha21.or.kr.)

위 호텔 비용은 KIHA 호텔 신청서를 통해 기한 내 숙박 신청을 완료한 경우에만 확정됩니다. 예약 확정 후에는 취소가 불가하며, 결제는 현장에서 직접 진행해야 합니다.

숙박을 희망하시는 분들께서는 품을 작성하셔서 해당 국가의 담당자들에게 전달해주시기를 부탁드립니다.

해당 국가의 담당자들은 취합하여 아래 메일로 보내주시기를 부탁드립니다.

(한국인 분들은 youngsw94@kiha21.or.kr로 메일을 보내주시기를 부탁드립니다.)

1. 개인 정보 (Personal Information)

영문 성함 (English Name)	
소속 (Affiliation)	
직책 (Job Title)	
이메일 (Email)	
연락처 (Mobile Number)	

2. 예약 정보 (Booking Details)

체크인 날짜 (Check-in Date)	(Month/Day/Year)
체크아웃 날짜 (Check-out Date)	(Month/Day/Year)
숙박 일수 (Number of Nights)	(Month/Day/Year)
객실 유형 (Room Type)	<input type="checkbox"/> Deluxe Queen (1 bed) <input type="checkbox"/> Deluxe Family Twin(2 beds)

※ Includes free breakfast for 1 person per night.